

歴史散歩
周遊マップ

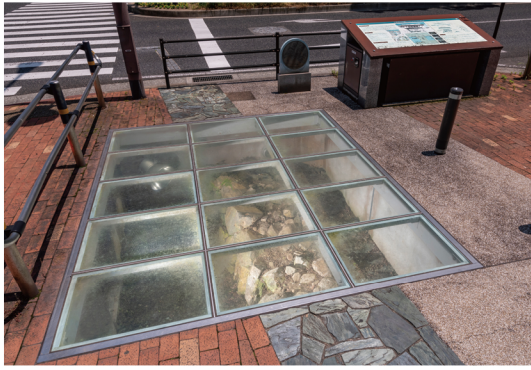
JR小倉駅からJR西小倉駅までの一帯は、紫川の西側を西曲輪、東側を東曲輪と呼んでいます。西曲輪は常盤橋から始まる旧長崎街道と小倉城周辺、東曲輪は基盤目の町割りが見どころです。かつての小倉城下町を想像しながら歩いてみてください。

① 妙乗寺



応永32(1425)年、佐賀へ向かう日蓮宗の日親上人が、小倉の沖で難破しそうになり安全祈願をしたところ、明星が岸に輝き、導かれて海岸に辿り着くことができたと言われています。

② 大門跡



室町から長崎へと向かう最初の門で、今の西小倉駅前にありました。近年の発掘調査で門の礎石や護岸の石垣が出土したため、現在では歩道に透明板が張られ、地上から遺跡の一部を観察することができます。

③ 長崎街道ギャラリー



室町のD.C.タワー建設時に行われた発掘調査で、武家屋敷跡、町屋跡の井戸などが発見されました。タワー1階北側のウィンドウには、陶磁器から玩具まで、各時代の息遣いが感じられる多くの出土品が展示されています。

④ 常盤橋



細川時代(江戸時代初期)に城下の西曲輪と紫川東側の東曲輪を結ぶ橋として架設されたといわれています。小倉から九州各地へのびる「五街道」の起点で、九州の要所、城下町小倉の中心として賑わいました。

⑤ 伊能忠敬顕彰碑



忠敬は寛政12(1800)年、55歳で土地の測量を始め、日本全国の測量と地図の作成という偉業を成し遂げました。九州では小倉の常盤橋が測量の第一歩となったことから顕彰碑が設置されています。

⑬ 安国寺



足利尊氏が全国に建立した寺の一つ。境内には伊達宗興の墓や松尾芭蕉の句碑があります。第27代住職・玉水俊就は小倉に在住した森鷗外と親交を結び、「二人の友」「独身」にも「安国寺さん」「寧国寺さん」の名で登場します。

⑭ 三の丸土塁



小倉城内三の丸と西曲輪(武士と町人が混在)を区切っている土塁で、現存しているのは当所だけ。三の丸の中のこのあたり(現在の思永中学校)には、小笠原藩家老で宮本武蔵の養子である宮本伊織の屋敷がありました。

⑮ 八坂神社



元和3(1617)年、小倉城主の細川忠興が鋳物師町に紙園社を祀りました。明治時代に八坂神社と改名し、昭和8(1933)年に小倉城内の現在地に移設。忠興の眼病平癒祈願の石造燈籠や鳥居は県指定文化財です。

⑭ 小倉城



唐造りの名城として名高い小倉城は、慶長7(1602)年に細川忠興が築城。昭和34年に再建された天守閣はいまや小倉のシンボルです。切石を使わない「野面積み」の石垣は忠興自慢の一つであったと言われています。



小倉城に来たら、ぼくに会えるかも！

小倉城マスコットキャラクター とらっちゃん

小倉城マスコットキャラクター とらっちゃん

⑬ しろテラス



小倉城関連だけでなく北九州土産も販売。観光案内所とカフェがあり、和の雰囲気を感じるラウンジからは築城当時の石垣を眺めることができます。営業時間は9時～18時まで、年中無休。

⑫ 岩松翁顕彰櫓



幕末、長浜(小倉北区)の岩松助左衛門は、小倉沖で相次ぐ船の遭難に私財を投じて灯台建設を目指しました。事業はのちに明治政府が引き継ぎ、明治6(1873)年に完成。顕彰櫓は翁の偉業を伝えるものです。

⑪ 旦過市場



魚屋をはじめ、八百屋・果物屋・肉屋・惣菜屋などが軒を連ねる“北九州の台所”。旦過の名は、初代藩主忠真の父・秀政の菩提寺がそばにあり、門前の修行僧の宿泊所が「旦過寮」と呼ばれていたことに由来すると言われています。

⑩ 菅原神社



慶長7(1602)年、細川忠興が小倉城を築城したころから小倉府内(城下町)の氏神として、農業・漁業・商業・産業・交通の神々を祀り、信仰を集めています。また菅原道真公を祀っており、学問の神様としても親しまれています。

⑨ 欣浄寺



小倉藩主・小笠原忠真が兜の上にこの寺の子安観音菩薩像を頂き合戦に赴いたところ、数度の戦に一傷も負わず、多くの戦功を立てて帰陣したいといいます。この故事を詠んだ俳人・河野静雲の句碑もあります。